

講義名	日本経済論			授業形態	
担当教員	上滝 真生	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

現在、日本経済は転換点に立っている。グローバルな経済発展が曲がり角に立つなかで、日本経済がどのように進むべきかが問われている。この講義では、前半で働く人々の状態という見地から日本経済の現状を考察し、後半で第二次世界大戦後、日本経済が進んできた過程を考察する。これらをもとに、今後の日本経済のあり方を受講生とともに考えたい。

到達目標

今日の働く人々の状態を日本経済の現状との関係で理解し、自分なりの考えをもつことができるようになる。
第二次世界大戦後の日本経済の歩みについて理解し、自分なりの考えをもつことができるようになる。
以上を踏まえて、今後の日本経済のあり方について考えることができるようになる。

提出課題

毎回の講義でクイズを課す。
中間レポート試験を課す。
期末レポート試験を課す。
*これらは、キャンパスクロスをつうじて提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回のクイズについては、キャンパスクロスをつうじて採点結果を伝え、次の講義でコメントする。
中間レポート試験については、キャンパスクロスをつうじて採点結果を伝え、講義でコメントする。
期末レポート試験については、要望があれば個別にコメントを付して採点結果を伝える。

評価の基準

各回の講義で行うクイズ、中間レポート試験、および期末レポート試験の総合評価（単純合計）による。これらを通じて、三つの到達目標についての到達度を測る。
クイズ 30点満点（毎回 2点 x 15回）
中間レポート試験 40点満点
期末レポート試験 40点満点

履修にあたっての注意・助言他

できるだけ身近な問題と関連づけながら講義するつもりであるが、受講生も新聞や雑誌などの関連記事に目を通し、今日の日本経済をめぐる問題を知る努力をしてほしい。

以下のとおり、受講ルールを定める。
 (1) 授業開始後15分を経過した方は入室を認めない。
 (2) 席上については教員の指示に従う。
 (3) 私語厳禁。目にあまる場合は退室してもらう。
 (4) 携帯電話などの電源は切る（レジュメへの書き込みなどでPCやスマートフォンを使う場合は例外とするが、写真撮影は禁止する）。

教科書

.教科書は使用しない。 .

--	--	--	--	--	--

参考図書

.講義内で適宜紹介する。 .

--	--	--	--	--	--

その他

キャンパスクロスをつうじてレジュメ、資料を公開する。
公開は講義日の1日前を基本とする。
受講生は、これらをダウンロードし、印刷するなど、講義に向けて準備すること。

授業計画

01. はじめに / 現在の日本経済を考えるために
 02. 働く人々の状態からみた日本経済 雇用・失業をめぐる状況(1)
 03. 働く人々の状態からみた日本経済 雇用をめぐめる状況(2) / 賃金をめぐめる状況(1)
 04. 働く人々の状態からみた日本経済 賃金をめぐめる状況(2)
 05. 働く人々の状態からみた日本経済 労働時間をめぐめる状況
 06. 働く人々の状態からみた日本経済 男女の働き方のちがい(1)
 07. 働く人々の状態からみた日本経済 男女の働き方のちがい(2)
 / 日本経済の歩み 戦後日本経済の歩みと私たちの人生
 08. 日本経済の歩み 戦後復興
 09. 日本経済の歩み 高度経済成長(1)
 10. 日本経済の歩み 高度経済成長(2)
 11. 日本経済の歩み 安定成長と貿易摩擦
 12. 日本経済の歩み バブルとバブル崩壊
 13. 日本経済の歩み グローバリゼーションの中の日本経済(1)
 14. 日本経済の歩み グローバリゼーションの中の日本経済(2)
 15. 日本経済の歩み 日本経済の課題

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回のクイズ解答作成を含め 授業 20時間
 中間レポート試験の準備 20時間
 期末レポート試験の準備 20時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

日本経済論は、経済学部 学部専門基礎科目に配置されている経済学科・経済情報学科共通の6科目中の1科目である。到達目標 - を達成することによって、経済学部ディプロマ・ポリシーで言う「経済学の知識を幅広く修得」すること、「総合的考察...に秀でた人材」となることに寄与する。また、到達目標 - を達成する過程で今日の働く人々の状態を示すデータを読み、「情報処理能力に秀でた人材」となることに寄与する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回のクイズについて、次の講義で必要なコメントを行う。
できる限り、受講生が発見を述べた機会をつくる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

キャンパスクロスや RYUKA Portal のメールなどをこまめにチェックすること。